

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	<b>I 理念に基づく運営</b>			
	<b>1. 理念の共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体で作成した「①自由な暮らし、②願いや想い、③人との絆、そして自分らしさを大切に」という理念を基に、事業所内の職員で話し合い、具体化している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は見やすいところに掲示し、毎朝の申し送りの際に唱和するとともに、日々のケアやカンファレンス等の会議の際には、理念を基に入居者の日々の生活を振り返り、よりよい生活が送れるようにケアプランへ反映している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	2ヶ月に一度の運営推進会議や家族会で、活動内容の報告や検討を行っている。運営推進委員の方より、「普段の活動が地域に響いていると思う。会議の席での意見がないため、浸透していると考えてよいのではないか」との意見を頂いた。		
	<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常の挨拶をはじめ、法人の催し物や地域交流プラザでの月に一度の料理教室への案内、入居者とともに作ったおはぎ配り等、隣近所の方が気軽に立ち寄っていただけるよう関係作りに努めている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常の挨拶をはじめ、法人の催し物の案内や子供見守り隊における小学生との関わり、ゲートボール大会の応援等、地域の行事にも積極的に参加している。地域の方からも、「普段の挨拶をはじめ、地域の行事にも積極的に参加されていると思う」との言葉を頂いた。		
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域交流プラザでの料理教室への参加も増えてきており、地域住民との関係作りも進んできていると思う。また、地域の清掃活動へ参加したり、緊急時の一時的な避難場所としても開放している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で、会議の際に自己評価と外部評価の意義についての勉強会を開催し、理解を促している。また、自己評価で日々のケアを振り返るとともに、外部評価後には、速やかに会議を開き、改善策を建てている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業計画や報告、その他職員の移動や事故報告、苦情など様々なことを報告し、検討している。実際に、内容や表現についての指摘を受け、変更もしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所の新人職員の現場研修を受け入れ、認知症の方の理解や意識改革につながるような研修プログラムを準備し、入居者や職員との意見交換を行っている。また、市が主催する研修会などにも積極的に参加し、交流を図っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	新人研修の際に教育するとともに、法人内の研修会や外部の研修会に参加する機会を設け、制度の理解と活用に努めている。 実際に制度を活用されている方もおられる。		
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人研修の際に教育するとともに、法人内の研修会や外部の研修会に参加する機会を設け、人権や拘束について意識付け、防止に努めている。		
	4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実際にホームの様子を見学または体験していたき、十分な説明を行い、理解、同意を得ている。 また、2ヶ月に一回の家族会では、ご家族のみで協議していただき不安や疑問点の抽出に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「ぶどうの会」という入居者の会を月に1回開催し、意見や不満の抽出に努めるとともに、必要に応じて個別に時間を設けている。また、運営推進会議にも参加していただき、運営にも反映している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には、日々の記録を見ていただき、意見や希望を聞くとともに、預かり金についても出納帳を作成し、サインを頂いている。状態に変化があれば、そのつど電話にて報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員や県、市への苦情相談受付の窓口を掲示するとともに、2ヶ月に一回の家族会では、ご家族だけで協議していただき、意見や不満の抽出に努めるとともに、会議の際に全職員へ伝達し、すぐに吟味し、反映させている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回の職員会議の際に、全職員に意見を求めるとともに、行事等に関しては、全職員で意見を出し合い、計画している。 また、個別面談を行い、個別に意見を求めている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	食事担当の調理員を配置するとともに、催し物や緊急の受診等、必要に応じ随時勤務変更を行い、調整している。また、2つのユニットで職員を固定しているが、必要に応じ応援体制をとっている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	移動や離職は最小限に抑えているが、研修生の受け入れや、ローテーション等で、職員の顔が増えることは多い。定年後でもパートとして勤務してもらっている。移動の際には、入居者の会で報告し、了解を得るとともに、ともに歓送迎会を行っている。		
	5. 人材の育成と支援			
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては、年齢や性別を理由に採用対象から除外しないようにしている。定年後の職員にもパートとして再契約している。また、新規採用者には、ローテーションにて各部署を体験していただき、個々にあった部署への配属に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	新人職員への新人研修や、法人内でも人権や接遇についての研修会を行い、日頃から意識付けしている。		
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員にはオリエンテーションと、ローテーションにより、様々な職場を体験してもらう教育制度を設けている。入社後も、職員の段階に合わせ、法人内の研修や外部研修への参加を促している。		
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の安心介護相談員を交えた交流会に参加し、交流を図るとともに、県のグループホーム協議会にも会員登録し、研修会などを計画、実行している。また、他事業所からの研修の受け入れも行っている。		
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	毎月の会議での意見交換をはじめ、事業所独自で食事会や旅行等を企画し、交流を深めるとともに、気になる職員には個別に時間を設け、ストレスが蓄積しないように配慮している。		
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員一人ひとりの個性や長所を把握し、能力に応じて新人や研修生等を担当することで、指導を通じて能力を発揮し、自身を持つことで向上心の維持に努めている。		
	<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居申し込み時や利用前に、ご家族とともに本人さんにもホームを見学していただき、不安や想いを引き出せるよう努力している。		
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居申し込み時や利用前にホームを見学していただき、ホームの雰囲気を知っていただくとともに、現在や今後の不安や要望を引き出せるよう努力している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要として いる支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努め ている	入居申し込み時や相談を受けた際には、現在の 本人さんやご家族の状況をお聞きし、緊急性が あれば他の事業所や法人内の事業所、地域包 括センターへの紹介を行っている。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、 サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用 者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら 工夫している	入居前には必ずホームへ来ていただき、職員と 関わりを持っていただくことで、馴染みの関係を作 るとともに、昼食をともにしていただき、他の入 居者とも交流を図っている。		
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過 ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあ う関係を築いている	日々の生活において、喜怒哀楽をともにし、食 事作りや後片付け、掃除やゴミ捨て等生活全般 に関わっていただき、役割を持っていただくこ とで、ともに生活を築いている。		
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽 を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	忘年会や旅行等の行事は、計画の段階から参 加していただき、協力し合いながら実行して いる。		
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関 係が築いていけるように支援している	ご家族より情報を得て、アセスメントを行い、関 係の理解に努めている。また、自宅への外出や 外泊なども積極的に支援し、ご家族の宿泊も可 能であり、食事も提供している。		
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用されていた病院や美容室など、関 係が途切れないように付き添いや送迎を行っ ている。また、知人の方の面会も受け入れ、入居 前に利用されていたの事業所への訪問も行っ ている。		
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ソファや和室等入居者の居場所を確保し、関 わりがもてるよう配慮するとともに、食事の準備 や後片付け等個々の能力に合わせた役割を 持っていただき、入居者同士が助け合う機会を 設けている。		
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要と する利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大 切にしている	法人内に移られた方に対しては、頻回に行き来 する機会を設けている。他の法人や病院へ移ら れた方に対しても、職員が訪問し、関係の継続 を図っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> 1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別に担当職員を決め、馴染みの関係を作るとともに、意思表示が可能な方へは、個別に時間を設けたり、入居者の会で希望や意向の把握に努めている。困難な方へは、ご家族の協力を得て生活歴を考慮し、希望に添えるよう職員会議で検討している。		
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご家族にも協力していただきアセスメントを記入していただくことで、入居前の生活環境や生活習慣、自宅での役割等の把握に努めている。		
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎朝のバイタル測定による体調の確認とともに、入居者一人ひとりに担当の職員を決め、個々の暮らしや残存能力の把握に努めるとともに、職員会議や担当者会議の際に、全職員へ周知している。		
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常生活の中から、本人さんの思いや希望を引き出し、担当者会議には可能な限りご家族にも参加していただいている。また、介護計画作成の際には、医師や管理栄養士等、他の専門職からの助言ももらっている。		
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月月末に経過を記載し、職員会議や朝の申し送りの際にも協議し、新たな計画へとつなげている。また、期間内であっても、状態の変化など必要に応じ、随時担当者会議を開き、計画を見直している。		
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に担当者を決め、個人ファイルを作り、介護計画の作成、見直しを行っている。また、毎日の個人記録とともに、介護計画や心身情報シートを綴じ込み情報を共有するとともに、必要に応じセンター方式を活用し、介護計画の見直しに活かしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個々の要望に応じて、受診や買い物等の送迎や付き添いを行っている。また、認知症対応型通所介護の申請を行っており、デイサービスの利用も可能である。		
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を通し、地域の民生委員の方や教育機関の方等に入居者を理解していただくために、食事の機会を設けている。また、福祉学習などの受け入れも積極的に行っている。	○	警察にも運営推進会議への参加を呼びかけているが、なかなか出席してもらえないため、巡回時の立ち寄り所としてもらえるよう依頼する
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	協力病院や地域支援診療所からの訪問診療や訪問看護、市の高齢者サービス等、地域包括支援センターの職員や法人内のケアマネジャーと話し合い利用を支援している。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員にも運営推進委員として運営推進会議に参加してもらい、いつでも助言やアドバイスがもらえるような体制を整えている。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院による訪問診療や定期検査の体制は整えているが、希望の医療機関へかかるよう支援している。また、受診や検査の際は送迎や付き添いを行うとともに、情報提供書を作成し、情報交換を行っている。		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医や物忘れ外来等を紹介し、情報提供書を作成し提出することで、適切な情報の共有を図るとともに、相談や助言を頂いている。		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	配置看護師を配置し、入居者の健康管理に努めるとともに、協力病院やかかりつけ医、地域支援診療所とも協力し、訪問看護サービスを利用されている方もおられる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時にはサマリーを作成し情報提供を行うとともに、定期的に面会し、入院先の医師や看護師と相談し、ホームでの治療が可能な場合は、訪問看護等のサービスを利用することで、早期退院に努めている。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、医療受診確認書を記入していただき、本人さんやご家族の終末に対する意向を確認するとともに、状態の変化に応じて随時確認している。また、看取りの同意書を作成し、看取り希望者には、地域支援診療所とも連携し、方針を共有している。		
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	協力病院や地域支援診療所との連携をもとに、24時間、365日の医療を確保し、吸引器やパルスオキシメーター、AED等を設置し、使用方法等の勉強会を開催している。また、日頃から会議の際に、できることとできないことを検討している。		
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ホームを退居し生活の場を変えられる方に関しては、本人さんやご家族の了解のもと、日々の様子や、健康状態などの情報を提供している。また、転居先へも訪問し、住み替えによるダメージの軽減を図っている。		
	<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録物は所定の場所に保管し、ホーム外には持ち出さないよう徹底している。また、個々の性格を把握し、プライバシーを傷つけないよう職員間で話し合い、排泄の失敗などは個別に居室へ誘導している。		
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の会で希望を聞くとともに、個別に時間を設け、希望の抽出に努めている。また、入浴や外出等日常生活についても、個々に合わせた選択肢を提供し、自己決定を促している。		
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出の希望があれば同行することを伝え、了解を得て付き添い、食事や入浴の時間を遅らせる等柔軟に対応している。また、業務に細かい決まりを作らず、いつでも希望に添えるようにしている。		



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	男性は髭剃りを持参されたり、女性は化粧品等を持ち込まれ、外出時には外着に着替え、化粧等の手助けをし、外出している。また、希望の美容室や馴染みの理髪店への送迎も行っている。		
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みの物を聞き出し、積極的にメニューに取り入れるとともに、買い物から後片付けまでのすべてに参加していただき、毎月1日と15日には赤飯や刺身を提供し、食事に楽しみを持ってもらっている。		
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	希望があれば買い物に付き添い、自由に買い物をしていただいている。入居前に晩酌をされていた方には、ホームでも晩酌の支援をしている。		
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作成し、個別に排泄パターンの把握に努め、トイレでの排泄を促すとともに、必要に応じ、紙パンツや布パンツ、オムツ等使い分けている。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後から入浴できる体制を整え、無理強いせず、一人ひとりの入浴習慣に合わせて入っている。夕食後の入浴も可能である。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の生活習慣をアセスメントし、その時の状況に合わせて本人さんの意向に添えるよう環境を整え、日中の活動を促し夜間の安眠に繋げている。		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や後片付け、掃除や洗濯物たたみ等、個々の能力に合わせた得意なことを役割とし持ってもらっている。また、外出の機会を多く持ち、ホーム内だけの生活とならないように努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員がお金を持つことと使うことの大切さを理解しており、金銭管理が可能な方には自己管理していただいている。困難な方は、ホームで預かり、いつでも希望に応じて使えるようにしている。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物をはじめ、外出時は送迎や付き添いを行い、希望に添えるようにしている。また、お盆や正月等には、ご家族の協力を得て、自宅で過ごされるよう勧めている。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	花見やドライブ等季節に応じて生活の中に取り入れ、希望があれば、個別又は他者とともに出かけている。また、車椅子の貸し出しを行い、ご家族との外出も支援している。		
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望されれば居室にてダイヤルし、本人さんと変わり話して頂いている。郵便物は直接本人さんへ渡し、年賀状や暑中見舞いのやりとりも支援している。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも面会を受け入れ、リビングや和室、居室など好きなどころですごして頂いている。希望時は食事や宿泊も可能であり、馴染みの人との時間を大切にしている。		
	(4) 安心と安全を支える支援			
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人研修や法人内の研修、外部研修等に参加し、身体拘束によって受ける精神的、肉体的苦痛を理解し、見守りや付き添いを中心とした拘束をしないケアを徹底している。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず誰でも自由に入出入りできるようにしており、センサーを用いて人の出入りのみ音で確認が取れるようになっている。各居室にも内鍵があり、入居者自ら施錠できるようになっている。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の動きを把握しやすいように、オープンキッチンとなっており、各居室も把握しやすい作りになっている。居室で過ごされる際には、定期的に巡回し、見守りや声かけを行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	夜間帯は、洗剤や包丁等の危険物は戸棚や引き出しになおすよう、チェック表を作成し徹底している。自己管理が可能な方には、定期的に安全に使用されているか職員が確認している。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	万が一の事態に備え、地域住民や派出所の方に、運営推進会議等の場を用いて協力を得ている。また、個別に担当職員を決め、居室に整理整頓、足元の安全を確保している。		
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人内の研修や職員会議の際に、AEDや応急手当、連絡方法等緊急時に備えた訓練を行っている。また、マニュアルを作成し、全職員が対応できるように備えている。		
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の防災訓練を行い、法人全体で災害に備え、避難場所や経路も周知している。また、運営推進会議では、入居者の様子を報告し、緊急時に協力を得られるよう働きかけている。		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時に個人記録を見ていただき、現在の状況やリスクを確認し、対応策を検討している。また、職員会議でも個々に応じた対応策を話し合い、理念に掲げている自由な暮らしを大切にしている。		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルサインや日中の表情や様子から異変の発見に努めている。変化があった場合は、速やかにご家族及び医師や看護師に連絡し、職員間でも情報を共有し、観察を行っている。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に内服カードを作成するとともに、処方箋を保管し、薬の作用や副作用の把握に努めている。また、勉強会を開催し、全職員で周知徹底している。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取量を増やすとともに乳製品を提供し、散歩や適度な運動等を取り入れ自然排便を促している。困難な方は医師と相談し、下剤を使用するなど、個々に応じたコントロールに取り組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後うがいや歯磨きの声かけを行い、個々の能力に合わせた介助を行っている。義歯を使用されている方には洗浄剤を使用し、口腔内の清潔保持に努めている。		
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の助言のもと、摂取量や栄養バランス等を考慮し、食事量については摂取表を作成し、記入している。水分は1日に1000ccを超えるよう努めている。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	それぞれの感染症に対しマニュアルを作成し、職員間での周知、徹底を図り、流行時には消毒や高温による殺菌処理を行っている。インフルエンザについては、予防接種を促している。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具や布巾等は定期的に殺菌消毒し、冷蔵庫内の整理整頓を心がけ消費期限の確認を行っている。調理や食事前には手洗いを徹底し、食中毒の予防に努めている。		
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関のスロープには手すりを設置し、周辺には季節の草花や木々を植え、誰でも気軽に出入りができ、家庭的な環境作りに努めている。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	洋風な造りではあるが、和風の家具や古風な物を揃え、家庭的で馴染みを感じられる物を利用し、季節に応じた花や飾りをし、居心地のよい雰囲気作りを図っている。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室のスペースを作り、テーブルや椅子、ソファ等を配置し一人でも気の合う仲間とでも思い思い過ごせるような場所を確保している。		
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力を得て、馴染みの家具や使い慣れた日用品をそのまま持ち込んで頂き、ご家族の写真や思い出の品、テレビや冷蔵庫、仏壇等個々に合わせた自宅に近い環境作りを心がけている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビングには24時間換気扇を設置し、定期的に換気をするとともに、必要に応じて消臭剤を使用している。また、各居室には冷暖房を設置し、個々に合わせた温度調節と換気を行っている。		
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関やリビング、浴室やトイレの手すりをはじめ、居室にも平行棒や家具等を設置し、個々に合わせ自立した生活が送れるように工夫している。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室には表札や暖簾を付け、アクセントをつけることで分かり易くしている。各居室にトイレを設置し、排泄の失敗を防ぎ、混乱をまねかないようにしている。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周辺にはベンチを置き、いつでもくつろげるようにしている。また、ベランダには季節の花や野菜を育て、自由に出入りできるようにしている。		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
<b>v サービスの成果に関する項目</b>		
90	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者の 《 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
91	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 ○ 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
92	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
97	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 ○ 》①ほぼ全ての家族と 《 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
98	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 》②数日に1回程度 《 ○ 》③たまに 《 》④ほとんどない
99	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 ○ 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くない
100	○職員は、生き活きと働いている	《 ○ 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
101	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
102	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての家族等が 《 ○ 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない